

自己及び他者の個性を尊重し、望ましい人間関係を構築する 性に関する指導を目指して

一個人差に気付き、体の変化や成長への肯定感を高める保健学習、
男女の違いを知り、相互の理解をすることで望ましい人間関係を築く保健指導—

健康教育研究会議

研究員 會田 章江（川崎市立井田小学校） 駒形 明美（川崎市立土橋小学校）

笠原 恵（川崎市立今井中学校） 藤澤 美樹（川崎市立向丘中学校）

指導主事 田中 理恵

I 主題設定の理由

近年、子どもたちを取り巻く社会環境が大きく変化し、性情報の氾濫などにより、子どもたちが性に関して適切に理解し、行動することができるよう学校における性に関する指導を充実していくことが課題となっている。平成20年1月の中央教育審議会答申では、学校における性に関する指導に関連する内容として次のように示されている。

（心身の成長発達についての正しい理解）

○学校教育においては、何よりも子どもたちの心身の調和的発達を重視する必要がある、そのためには、子どもたちが心身の成長発達について正しく理解することが不可欠である。しかし、近年、性情報の氾濫など、子どもたちが性に関して適切に理解し、行動することができるようにすることが課題となっている。また、若年層のエイズ及び性感染症や人工妊娠中絶も問題となっている。

○このため、学校全体で共通理解を図りつつ、体育科、保健体育科などの関連する教科、特別活動等において、発達段階を踏まえ、心身の発育・発達と健康、性感染症等の予防などに関する知識を確実に身に付けること、生命の尊重や自己及び他者の個性を尊重するとともに、相手を思いやり、望ましい人間関係を構築することなどを重視、相互に関連付けて指導することが重要である。

また、家庭・地域との連携を推進し保護者や地域の理解を得ること、集団指導と個別指導の連携を密にして効果的に行うことが重要である。

このように、性に関する指導をすすめるうえで、子どもたちの発達段階を踏まえ、体の発育・発達などに関する知識を確実に身に付けること、自己及び他者の個性を尊重するとともに、相手を思いやり、望ましい人間関係を構築することを考えることは、重要である。そのような性に関する指導を目指し、指導内容や方法等、研究を進めることにした。研究員の所属校の実態から、思春期の体の変化の起こる時期が人によりかなり差のあること、体の変化を肯定的に受け止めていない児童生徒が少なからずいること、中学生になり体の変化とともに心の変化も見られ、男女を意識し始め、人間関係に影響が出ることなどがわかった。それらを踏まえ、今回の研究では、個人差に気付くこと、体の変化や成長への肯定感を高めることをねらいとした保健学習、男女の違いを知り、相互の理解をすることで望ましい人間関係を築くことをねらいとした保健指導を考えることにした。

II 研究の内容

1 研究の方法

（1）実態把握

研究員の各校における性に関する指導の実態、子どもたちの実態について把握する。

(2) 効果的な指導内容や方法の検討

文献や先行研究の調査と収集を行い、効果的な指導内容や方法を検討する。

(3) 授業モデルの作成

子どもたちの発達段階を踏まえた保健学習・保健指導の授業モデルを作成する。

(4) 検証授業の実践

研究会議で作成した授業モデルを研究員が所属する4校で検証をする。

(5) 検証授業の結果のまとめ

授業時・授業後のワークシートの記述の内容を整理し、分析する。

2 授業モデルの作成ポイント

保健学習・保健指導の目標を達成するために次のことを協議し、授業モデルを作成した。

(1) 保健学習・保健指導の内容および対象学年の検討

養護教諭が関わる授業の実態を踏まえ、小学校においては、保健学習4年生「育ちゆく体とわたし」中学校においては、特別活動の学級活動の内容を検討することにした。

小学校では、「育ちゆく体とわたし」(4時間)の単元全体を通して、子どもたちが、個人差に気が付き、肯定的に受け止められるような指導をすることが重要だと考えた。研究員の2小学校とも、毎年、小単元「大人に近づく体」「体の中で起こる変化」について養護教諭が授業者になっている状況であった。そこで、系統性のある指導内容で両小単元を養護教諭が指導する効果も見ることができると考え、今回の研究では、第2時の「大人に近づく体」を取り上げることにした。中学校2校では、性に関する指導について、保健体育科で扱うものの保健指導は実施していない状況であった。そこで、初めてであっても取り組みやすい題材、保健学習との関連、中学校3年間の見通しなどを考え、1年生での実施とした。1年生になると男女の身体的な特徴も徐々に顕著になる時期に入り、異性への関心をもつ時期になることから「男女相互の理解と協力」を題材として取り上げることにした。

(2) 教材・板書の工夫

子どもたちの関心、意欲を高めるような効果的な教材・板書について、検討を重ね工夫した。

(3) グループ活動

保健学習において、また学級活動における保健指導においても、学級の仲間たちとのグループ活動を通して、思考力や判断力を高めることの育成を目指して、内容や方法を検討した。

(4) 学年・学級担任との連携

学級担任とチームティーチングで実施するため、連携が不可欠である。実施にあたっては、養護教諭の専門性を生かした指導方法と教材研究を行い、具体的な活動とねらいを学級担任や学年と話し合い、共有しながら展開していくようにした。

(5) 家庭との連携

性に関する指導においては、子どもたちの学習だけではなく、家庭との連携が重要と考え、方法を検討した。

(6) 養護教諭の専門性を活用する

性に関する指導については、子どもたちの心身の成長発達には個人差があることから、すべてを集団指導で教えるのではなく、集団指導で教えるべき内容と個別指導で教えるべき内容を明確にし、それらに関連させて指導することが必要である。保健室での子どもたちの対応から、発達状況を把握し、それをもとに授業の組み立てを考えて集団指導を行い、また、必要に応じてその後の個別指導へとつなげていくことは、養護教諭の専門性を活用することにつながると考える。

3 検証授業

(1) 小学校

- ①実施校 研究員所属小学校 2校
- ②対象者 小学校4年生
- ③時期 平成25年11月
- ④実施内容 体育科 保健領域 「育ちゆく体とわたし」 小単元「大人に近づく体」(2/4)
- ⑤授業形態 担任と養護教諭のチームティーチングで実施
- ⑥授業の実際

○単元の評価規準

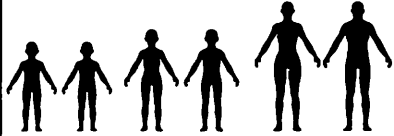
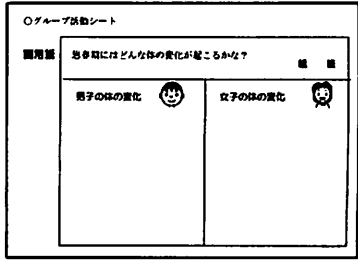
	関心・意欲・態度 (ア)	思考・判断 (イ)	知識・理解 (ウ)
評価規準	体の発育・発達について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	体の発育・発達について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、実践的に考え、判断し、それらを表している。	体の年齢に伴う変化や個人差、思春期の体の変化、よりよく発育・発達させるための生活について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
学習活動に即した評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ① 体の発育・発達について、教科書や資料などを見たり、自分の生活を振り返ったりするなどの学習活動に進んで取り組もうとしている。 ② 体の発育・発達について、課題の解決に向けての話し合いや発表などの学習活動に進んで取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 体の発育・発達について、学習したことを自分の生活と比べたり、関係を見付けたりするなどして、それらを説明している。 ② 体の発育・発達について、教科書や資料などを基に、課題や解決の方法を見付けたり選んだりするなどして、それらを説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 体は、年齢に伴って変化すること、体の変化には、個人差があることについて、言ったり、書いたりしている。 ② 思春期には、体つきに変化が起こり、人によって違いがあるものの、男女の特徴が現れることについて、言ったり、書いたりしている。 ③ 思春期には、初経、精通などが起こること、異性への関心も芽生えること、これらは、個人によって早い遅いはあるもののだれにでも起こる、大人の体に近づく現象であることについて、書いている。 ④ 体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方には、調和のとれた食事、適切な運動、休養及び睡眠が必要であることについて、書いている。

○本時 小単元「大人に近づく体」

○本時の目標

- ・思春期の体の変化について、学習したことを自分の成長や生活と比べたり、関係を見付けたりするなどして、それらを説明することができる。(イ-①)
- ・思春期には、体つきに変化が起こり、人によって違いがあるものの男女の特徴が現れることについて、言ったり、書いたりすることができる。(ウ-②)

○本時の展開

時間	学習活動 【★教師の支援】	評価規準			具体的な子どもの姿 【評価方法】◎A規準
		関心 意欲 態度 (ア)	思考 判断 (イ)	知識 理解 (ウ)	
導入	1. 前時の振り返りと本時の学習内容の確認をする。 2. 大人に近づくにつれ、男女の体にそれぞれ変化が起こることを知る。思春期についても知る。 ★男女のシルエットクイズをする。シルエットのどこに違いが現れたのかを考えさせる。 ★男子はがっしりとした体つき、女子は丸みのある体つきになることをおさえておく。 ★大人への体の変化が起こる時期を、思春期ということをおさえる。				 少年写真新聞社 SeDoc イラスト
展開	3. 子どもと大人を比べて、男女それぞれの体に起こる変化はどんなことがあるのか、班で意見を出し合う。 ★男女のシルエット上に、それぞれ特に着目してほしいところを4つ示し、体の変化を考えさせる。(5分間) 4. グループで出した意見を発表する。 ★1班ずつ違う意見を1つずつ発表させる。 ★全体で思春期に起こる体の変化、男女の体つきの違いを確認する(男子の変化を確認した後に女子の変化を確認する)。 ★これらの変化には性ホルモンが影響していることを伝える。 5. 体に起こる変化には個人差があることを知る。 ★インタビューを紹介する。			②	思春期には、体つきに変化が起こり、人によって違いがあるものの、男女の特徴が現れることについて、言ったり、書いたりしている。 

○本時の展開


展開	★身近な人たちの体験を聞くことで、誰にでも起こる変化であるという安心感をもたせたい。 ★体の変化の起こる時期や、起こり方、受け止め方には個人差があることをおさえる。	①	体の発育・発達について、学習したことを自分の生活と比べたり、関係を見付けたりするなどして、それらを説明している。
まとめ	6. ワークシートにまとめをする。 ★ワークシートの「悩んでいる友だちへのメッセージ」を、班で発表し合う。 ★班の中から1名ずつ、代表で全体に発表する。	①	体の発育・発達について、学習したことを自分の生活と比べたり、関係を見付けたりするなどして、それらを説明している。

○ワークシート

身近な人たちの「大人に近づく様」

名前 姓 名 年 齢

○自分の友達や、自分について、今日、学習したことを書いて、友だちが安心して声をかけてあげましょう。
(例) この歳、身長はどれくらい伸びたか。おしりや胸の毛の伸びなど。
(例) みんなはどれくらい大きくなったか。おしりや胸の毛など……



○今日の学習の感想を書きましょう。

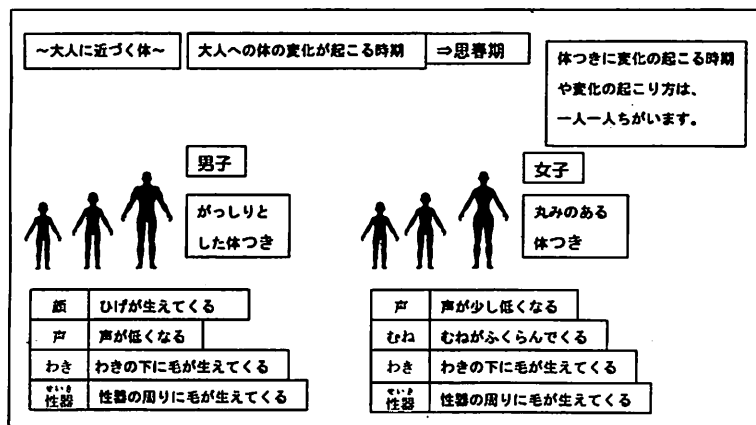
() ()

成長するのを楽しんで / 成長するのが心配です

○どうして、上のように思ったのでしょうか。もう少し詳しく書いてください。

○振り返ることがある人は書いてください

○板書計画



⑦検証授業の評価

検証授業の評価を保健学習のワークシートに記述した内容を整理し、分析した。

○個人差について

個人差の理解については、ワークシートの中で『あなたの友達が、悩んでいます。今日学習したことをいかして、友達が安心できるように声をかけてあげましょう』という問いで見取ることにした。

「個人差」や「一人一人ちがう」という言葉が用いられていた児童の割合は、43.6%であった。半数近くの児童が、「体の変化には個人差があること」を理解したことがうかがえた。その他、「みんなに（誰にでも）起こる変化であるから大丈夫」というような表現を使った児童も多く見られ、個人差や肯定感につながる学習内容であったと考えられる。

○体の変化や成長への肯定感

ワークシートの『今日の学習の感想を書きましょう』の設問に82.8%の児童が、「成長することが楽しみです」と回答していた。感想としては、「今の自分もいいけれど、大人の自分にもちょっとだけなってみたくから、成長するのが楽しみです。」「これからいろいろな成長を見つけていけるのがうれしいです。」などの記述があった。自分の体の変化や成長を肯定的に受け止めている児童が多く、本時のねらいを達成できたと考えられる。

「成長するのがちょっと心配です」と答えた児童は、15%で、感想では、「むねが大きくなったり、いろいろなことが起こったりするから少し怖い」「変化が起こったら何をどうすればいいのかわからない」という記述があった。心配と感じた児童への対応については、保健室での個別指導などの必要性も考えられ、また養護教諭の専門性を生かすことにもつながると考えられる。

月経に対する不安を記入していた児童も数人いた。学習前ではあったが、月経について知っている児童もいて、漠然と不安を持っていることもわかった。次時の「体の中で起こる変化」の授業においてもT2として関わるため、そのような不安に対しても、「次の時間で学習するからね」とつなぐこと

ができたのは良かったと感じた。その次時の授業後の感想には、「月経についてなんとなく知っていたが、どういうものなのかがわかって安心した。」と書いていた児童がいた。学習することにより、正しい知識を習得し肯定的に受け止めることができたのではないかと考える。また、養護教諭が両小単元に関わる効果も感じられた。

⑧授業後の子どもの変容

授業の後、数名の女児が、保健室に来室し、自分の成長の様子を「胸がふくらんできたんだよ。」「生理が始まっている」など報告した。児童たちは、少し恥ずかしそうだが、嬉しそうな様子が見受けられた。自分の成長を楽しみにしていることや、成長している喜びを誰かに伝えたいという気持ちが感じられた。授業後の個別指導に継続的に関わることで、養護教諭の専門性を生かすことができると実感した。2校とも、本時の授業後に、担任・養護教諭のTTで次小単元「体の中で起こる変化」の授業を行った。前時で個人差についての学習ができていたため、初経・精通についても個人差があるということが、より子どもたちに伝わったと感じた。

(2) 中学校

- ①実施校 研究員所属中学校 2校
 - ②対象者 中学校1年生
 - ③時期 平成25年10月、12月
 - ④実施内容 特別活動 学級活動(2) 適応と成長及び健康安全 エ 男女相互の理解と協力
 - ⑤授業形態 担任と養護教諭のティームティーチングで実施
 - ⑥授業の実際
- 題材名 「よりよい学校生活を築くために男女を理解しよう」
 (2)ーエ「男女相互の理解と協力」


○題材の目標

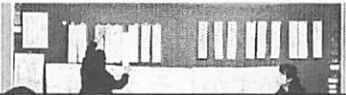
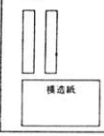
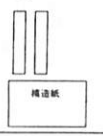
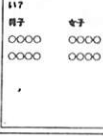
- ①異性の良いところを進んで見つけ、男女相互の理解を深める。
- ②人間として互いに協力し尊重し合う態度を身に付ける。

○評価規準

集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
男女で協力して様々な活動に取り組もうとしている。男女でお互いに尊重し合おうとしている。	学校生活でお互いに尊重し生活することの大切さを考え、実践している。	男女の考え方や体の違いを理解している。男女での人間関係を築くためのルールやマナーについて理解している。

○本時の活動 T₁:担任 T₂:養護教諭

生徒の活動	教師の指導(・) 評価(◎)
<p>○本時の学習のねらいを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シルエットを見て男女の体の違いを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小1、小4、成人男女の正面のシルエットを提示し、成長するにつれ男女の体格に差が出てくることから、「心の面でも違いが出てくるのではないかと」と投げかけ性差を感じさせる。(T₂) ・題材を提示する。(T₁) ◎男女の考え方や体の違いを理解している。(集団活動や生活についての知識・理解)
<p>○本時の学習のねらいを知る。</p> <p>C 中学校では、この授業の前に保健学習の「心身の機能の発達と心の健康」が終わっていたため、それに関連させる導入を行った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保健学習の授業を思い出させ「男女の違いって何がある？」と投げかける。身体的な性差について気付かせ、本日は精神面での差について考えていくことを伝える。 ・男女平等の中でも、体の違いや考え方の違いがあるため、役割に違いが出てくるのではないかとすることを考えさせる。(T₂) ◎男女の考え方や体の違いを理解している。(集団活動や生活についての知識・理解)
お互いに思っていることについて考えてみよう	
<p>○男女の思っていることの違いについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分は「男子(女子)にどう思われたいか？」を各班でワークシートに思いつくままに記入する。 ・各班で、出した意見の中からベスト3を挙げ発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・男女別の班を作るよう指示する。(1・2班、3・4班、5・6班の男子、女子が組んで男女別の班) ・「男子(女子)にどう思われたいか？」班で考えさせる。 ・ワークシートを班ごとに配付し、記入させる。(T₁・T₂) ・出した意見を男女別に板書する。(T₂) ・出した意見を見て、思ったことを数名に発表させる。 ・出した意見を「同じところ」「違うところ」でまとめ、男女の思いの違いを考えさせる。(T₂)

お互いのどんな良さに気付いているのかな？		
<p>○「班対抗男子・女子のよいところを見つけよう大会」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・付箋紙に自分の班の男子（女子）のよいところをできるだけたくさん書き、班の中で発表しながら模造紙に貼っていく。 ・班ごとに、出した意見の中でこれがよいと思うベスト3を決め、短冊に書く ・班ごとにベスト3を書いた短冊を黒板に貼り、模造紙を提示しながら発表する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・付箋紙（男子：水色、女子：ピンク）を班ごとに、模造紙（1/4のサイズ）を2班に1枚配付する。（T₁・T₂） ・「お互いに気にしていることは書かない」「人の意見は否定しない」などのルールを提示し伝える。（T₁） ・各班で意見の中でベスト3を決めさせ短冊に書かせる。 ・男子は男子、女子は女子の出した意見を種類分けし、男女の視点の違いを理解させる。（T₂） ◎男女での人間関係を築くためのルールやマナーについて理解している。（集団活動や生活についての知識・理解） ◎男女で協力して様々な活動に取り組もうとしている。（集団活動や生活への意欲・関心・態度）
<p>C中学校では、短冊は作成せず、付箋を貼った模造紙を黒板に掲示した。貼られている付箋の多さで「こんなにたくさんの良いところを書いてくれた」ということは感じられるが、書かれている内容を読み取ることは難しい。男女の視点の違いを考えさせるため、短冊に書いて意見を種類分けして違いを分かりやすくした。</p>		
<p>終末 (10分)</p>	<p>○今日の授業をふまえ、感謝やエールなどメッセージカードを書く。</p> <p>○板書計画</p>	<p>よりよい学校生活を築くために男女を理解しよう</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>男子</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>女子</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>男子・女子の両方の良いところ</p>  </div> </div>
<p>○事後の活動</p>		
<p>活動の場面</p> <p>学校生活</p>	<p>生徒の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○メッセージカードをA4の紙に貼り教室に掲示する。 ○感想を書く。 	<p>教師の指導（・） 評価（◎）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男子（女子）を互いに大切にし、協力して学校生活を送れるように助言する。 ・授業を受けてみて、また貼り出されたメッセージカードを読んだ感想を書かせる。 ◎学校生活で互いに尊重し生活することの大切さを考え、実践している。（集団や社会の一員としての思考・判断・実践）

⑦検証授業の評価

検証授業の評価を保健指導後の感想シートに記述した内容を整理し、分析した。

C中学校では「男女相互の理解」が読み取れるものは65%、D中学校では87.5%あり、おおむね、ねらいを達成できた授業となったのではないかと考えられる。男子、女子ともに「『こんなことを思っていたのか』と気持ちを知ることができてよかった。」「普段言えないことが言えてよかった。」などの感想が多くあった。さらに「気持ちを共有し合うことが、どのくらい大切なのかが分かった。」「いつもうるさくて元気な男子に、つい冷たい態度をとってしまうけど、これからは冷たい態度をとる前に、ちゃんと考えて行動しようと思った。」など、理解することの大切さや、尊重する態度を養うことができたように感じる。また、男女を差別的に見ていた生徒も性差を意識し改めて考えたことで「男、女と見るのを改めようと思った。同じ人間だから差別するのはおかしい。良いところを見つけて、その人を理解したい。」と、人間として理解し尊重していこうという気持ちを持ったようだ。また「男女で考え方が違うと思っていたら、意外と似たようなところも多くおどろいた。」というものもあり、黒板掲示において、短冊で出した意見を同じもの、違うものと部類分けして男女の視点を示した結果であると考えられるものもあった。

C中学校、D中学校ともに「男子と女子の考え方が違うから理解することは大切なことだと分かった」という感想があり、性差を知ることでお互いを理解しようとする意欲に繋がるのだと改めて感じることができた。2校とも題材の目標、「異性の良いところを進んで見つけ、男女相互の理解を深める。」「人間として互いに協力し尊重し合う態度を身に付ける。」にせまることができたと考えられる。

⑧授業後の子どもの変容

授業を終えて担任からは、C中学校では、男女の中が分裂気味のクラスであったが、お互いに良いところを見ていると知ったことで、お互いのことを考えようという雰囲気になってきたという話があ

った。D中学校では、もともと男女仲の良いクラスだったが、一層クラスの雰囲気が悪くなりその後実施された自然教室の活動への協力体制づくりに効果的であったと話があった。

またC中学校では、この授業のことを1年生から聞いたという他学年の生徒から「私たちの学年でもやってほしい。」という声が多くあり、そのことをきっかけに他学年の先生と連携し、性に関する指導を学校全体で取り組んでいけたらと考えている。

Ⅲ 研究のまとめ

授業モデルの評価をもとに、作成ポイントに沿って整理をし、研究をまとめていく。

○ポイント1：保健学習、保健指導の内容の系統性

小学校では、検証授業の小単元「大人に近づく体」1時間だけではなく、前時の「変化してきたわたしの体」、次時の「体の中で起こる変化」へのつながりを考え、単元全体を通して、子どもたちが、個人差に気づき、肯定的に受け止められることができるような指導を考えた。特に、第2・3時と連続して養護教諭が指導することで、指導内容の系統性を考えることになり、個人差についてより理解させることができたのではないだろうか。また、個人差を抑えることにより、体の発育・発達を肯定的に受け止めることにつながったと考える。C中学校では、保健学習で学んだ「心身の機能の発達と心の健康」について導入で振り返ることにより男女の身体的成長の違いだけではなく、心の変化、違いに気づき、考えさせることができた。また、保健学習前のD中学校では、小学校4年時の保健学習内容を思い出せるような導入を考えたことにより、C中学校と同じような効果が得られたと考える。

○ポイント2：教材・板書の工夫

小学校では、導入で、男女の体つきの違いに着目させたいと考え、「シルエットクイズ」について工夫した。男女の違いと体の変化が起こる時期をわかりやすくするためシルエットのイラスト（少年写真新聞社にオーダー）について検討を重ね、効果的な提示のしかたについても考えた。この「シルエットクイズ」については、イラストのインパクトもあり、視覚的にわかりやすい教材となったので、子どもたちの興味関心を引き出すことができ、その後のグループ活動に効果的につなげることができた。また、子どもたちに個人差への理解や成長への肯定感を高められる学習内容について検討を重ねた。「誰にでも起こる変化」として受け止めることから高められるのではないかと考え、身近な大人の事例や教科書の事例を提示することにした。校長先生、担任の先生のインタビューや手紙を子どもたちに伝えることで、興味関心を引き付け、個人差への理解と肯定感を高めることができたと考える。中学校でも、グループでの話し合いの発表内容の板書方法を工夫することにより、男女の違いや共通点を視覚的に理解することができ、次の活動へのつながりをもたせることができた。また、メッセージカードを記入するという活動は、男女相互の理解を形にして表現するという活動になり、保健指導後そのカードを見返すことで、班の人間関係をより良好にする効果もあったと考える。

○ポイント3：グループ活動

小学校では、グループ活動を取り入れることにより、自分の考えや知っていることを出し合うという思考判断を高める活動ができた。活動の前に「性器」など子どもたちが恥ずかしがったり、言いにくかったりする用語を例示・統一することで、書き出すことへの抵抗感がなくなった。また、着目すべき体のポイントを提示したことにより、子どもたちも考える視点をはっきりさせて取り組むことができ、真剣に考え、恥ずかしさも和らいだように感じた。個人作業ではなく、グループ活動にすることで、誰にでも起こる変化としてとらえ、肯定感を感じさせる効果があったと考える。中学校では、班を男子・女子と分けることにより、意見を出ししやすい雰囲気になり、話し合い活動の活発化につな

がった。数をたくさん出すということで、より興味関心を引き出すこともできた。また、友達の意見を聞くことで、自分の気が付かなかった男子・女子の良さに気付くこととなり、より思考判断ができ、相互理解が深まった。話し合い活動の有効性を強く感じた。

○ポイント4：学年・学級担任との連携

学年主任、学級担任と子どもたちの実態や学習のねらいを話し合い共有した。このことで、指導の方向性の確認ができ、お互いに同じ認識をもって指導に取り組むことができたと考える。また、小学校では、第1時の授業を参観することにより、子どもたちの実態をつかむことができ、担任との連携も深まり、その後の授業への系統性をもたせる学習内容を考えることができた。

○ポイント5：家庭との連携

家庭との連携を図るため、小学校では、授業前に「お知らせ」を配付し、B小学校では授業参観も行った。授業後には、学年便りや保健だより等で授業内容や子どもたちの様子を伝え、保護者への理解を図った。子どもたちが安心して体の変化を迎えていくためには、それを見守る家庭の協力が必要であるので、今後も家庭との連携が重要だと考える。

○ポイント6：養護教諭の専門性の活用

養護教諭の専門性を生かし、小学校では、子どもたちが少なからず抵抗感や恥ずかしさを感じる学習内容を「体の学習」としてとらえさせることができた。また、集団学習で疑問や不安を感じた子どもについて、保健室で個別指導につなげることができると感じた。中学校においても、養護教諭が授業に関わることで、生徒に心と体のつながりを感じさせることができ、活動内容を工夫することで、興味関心を引き出すことができた。集団指導することで、子どもたちの教室での様子を把握することができ、今後の保健室での個別対応への参考になった。

以上のようなことから、保健学習、保健指導を工夫することで、子どもたちが自己及び他者の個性を尊重するとともに、相手を思いやり、望ましい人間関係を構築することにつながる性に関する指導ができると考えられる。児童生徒の発達段階を踏まえること、学習内容を考える段階から学級担任や教科担任との関わりを密にとること、養護教諭だけでなく担任・学年・学校・家庭との連携を重視し、学習を深めながら継続させていくことが重要である。

最後に、本研究を進めるに当たり、ご指導、ご助言をいただいた先生方、また、研究をご支援していただいた研究員所属校の校長先生ならびに教職員の皆様に心から感謝申し上げます。

【参考文献】

文部科学省 『「生きる力」を育む小学校保健教育の手引き』 2013年
国立教育政策研究所 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校 体育】
2011年

川崎市立小学校養護研究会宮前地区

『安心と自信をもって取り組める性に関する教育の実践に向けて』 2009年

【イラスト】

少年写真新聞社 SeDoc イラスト（小学校 教材・ワークシート）

【指導助言者】

聖心女子大学教授（川崎市総合教育センター専門員） 植田 誠治